第67回 大手企業交渉 賃金アップで処遇改善

担い手確保待ったなし
大手企業は現場で責任果たせ

日本教育会館での集会で交渉先企業名の入った封筒を持って壇上に並ぶ交渉団代表

4月19日・20日を中心に、全建総連関東地方協議会連絡会は第67回大手建設・住宅企業交渉を取り組みました。交渉先はゼネコン22社、住宅企業8社の計30社で、16県連692人（東京土建161人）が参加しました。

交渉に先立って、日本教育会館で開催された19日の集会の冒頭、3地協を代表して森田北関東地協議長が「普通に生活ができる保障を企業に訴えていかなければならない。今日来られない仲間や家族の思いをこめてがんばろう」と挨拶しました。

全建総連を代表して挨拶に立った勝野書記長は、「担い手確保が建設産業全体の課題になっている。他産業なみの労働条件としていくため、社会保険未加入対策や設計労務単価の引き上げ、週休2日・土曜閉所が取り組まれ、建設キャリアアップシステムも動き出している」と情勢の特徴を紹介。そして賃金・単価引き上げ、法定福利費確保に向けた『全国一斉120万枚宣伝行動』への参加と、「建設業を若者に魅力ある産業にしていくため、元請企業としてできることをしっかり現場で果たしてもらうように、現場の声を届けよう」と訴えました。

窪田東京土建本部副委員長による基調報告では、元請に現場労働者の賃金に責任を持たせる、収入を減らさずに週休2日を元請の責任で実施させるなどの要求実現のため、交渉機構確立に向けてがんばろうと呼びかけました。

「真摯に受け止める」
大和 歩み寄りの姿勢も

大和ハウスとの交渉

【共同デスク・古木記者】大和ハウス工業(以下、大和)との交渉には、佐藤豊団長(東京土建)をはじめ、20人が参加。大和側は6人が対応しました。

重層下請の調査に関する持ち越し課題については、「2次以下の下請業者へ至るまでの調査は非常に難しい」と従来と変わらぬ回答。賃金に関して組合側は、「3兆円を超えると言われる売上高も、職人あってこそ」と実際に行なった調査結果では変化のない賃金を上げるよう要求。大和は、「組合員数70万人近くの非常に大きな数の代表の発言として、真摯に受け止める」として今後休日の確保、適正工期、適正賃金にもっていくと約束。後継者不足の深刻さからか、回答内容では特段の進展はないが、大和側は「個人的には…」など断りながら、今までと違う歩み寄りの姿勢が感じられました。

特に法令遵守・労働環境の改善に関して大和は、「週休2日制にむけて取り組みを開始した。まずはこの4月の着工物件から建設現場で4週5休を導入」と回答。

また建設キャリアアップシステムでは、「国の趣旨にいち早く賛同し、就労履歴登録事項の時より積極的に参画」と答え、「現在利用しているグリーンサイトとの連動が今後の課題」としました。最後に5つの確認書取り交わしを約束して、交渉を終えました。

単価10%アップ回答
大林 組合は「その先」を要求

大林組との交渉

【共同デスク・村尾記者】大林組との交渉は、神奈川県連の荒井団長をはじめ組合側から17人、大林組から建築事業部工事第三部長など10人で行ないました。

荒井団長はあいさつで「設計労務単価が引き上げられているが組合調査でも、現場労働者の賃金は上がっていない」と強調しました。

賃金調査報告では、前回に続き公共工事現場も含めて公表されましたが、オリ・パラ関連現場のアクアティクスセンターの賃金実態については「匿名アンケートで賃金調査を行なっている都合で、現場ごとに集計していない」と回答を拒否しました。

建設現場での4週8休の実現については「昨年10月よりモデル現場を設けて試行しているので、問題や課題を整理し取り組んでいきたい」とし「4週5閉所の来年度から本格的な実施を前に、5月1日から常用労務単価の当社の標準を1割程度引き上げる。今年度の当社の取り組みであると認識いただければ」と単価改善に言及しました。

参加した2次下請の鉄筋工の仲間からは「週休2日にされてしまうとさらに厳しい。割増分を誰がみるのか、常用1割アップのその先を考えて欲しい」との要望に、「検討をして次回報告させていただきたい」と回答させました。

対象職種が増えた
積水 トイレ問題でも追及

【共同デスク・山田記者】積水ハウス（以下、積水）との交渉は小林団長をはじめ16人が参加。積水側からは15人が対応しました。

前回の課題「工事単価見直しの進行状況」については「平成26年8月に3職種（基礎・建方・大工）は5~10%改定、それ以外も28年8月に改定した」と回答。参加者からは「週休2日制が議論されるなど社会情勢が変化する中、賃金改定のサイクルを早くすべき」と要望しました。

これまでの交渉では3職種のみの賃金調査でしたが、今回は3職種以外の調査もされました。全国と関東エリアの就労別の平均年齢・経験年数・就労日数・支払賃金（日額・月額・年額・最低値・中央値・最高値）などが調査されたことは、一歩前進といえます。しかし、サンプル数が少なく、集計ミスと思われる箇所もあったことから、次回は現場単位で調査することでサンプル数を増やし、より実態に近い数値を出し、調査をするよう求めました。

現場従事者からの「外構工事の段階になるとトイレが撤去され、コンビニに行けと言われた」との声に積水側は「物理的にそうせざるを得ない場合があることはご理解いただきたい。現場を教えてもらえれば対応する」と回答しました。

10年間上がってない
竹中 休憩所改善を約束

【共同デスク・浅野記者】竹中工務店（以下、竹中）との交渉は、埼玉土建の斉藤委員長を団長に21人と竹中からは6人で行なわれました。

竹中の賃金実態調査により、職種別に集計し全業種を平均して1日1万8904円などと実態が報告されました。交渉団からは他企業と比べて一定の水準が確保されていることを評価しながら、設計労務単価には及ばないことと、サンプルが少ないことを指摘し次数ごとに集計し、実態把握を要請しました。

また、竹中の3次下請で働く仲間からは「ここ10年ほど賃金は上がっていない。元請と1次との間で改善されているかもしれないが、われわれのところでは賃金の改善がされていない」と率直な声が出され、交渉団から元請の責任で現場に入る労働者全体の賃金確保を目指すよう要請しました。

東京土建の参加者から、竹中の現場で、売店はあるが休憩所がない、新規入場のさいに開始時間の連絡の不徹底などのトラブルがあると声が寄せられているとして、調査と改善が要望されました。竹中から「新規入場者教育を受ける人が多い現場もある。突貫現場などでは行き届いていない現場もある。休憩所に関しても改善していきたい」と回答がありました。

調査内容を改めよ
清水「社で情報共有する」

【共同デスク・鈴木記者】清水建設（以下、清水）との交渉は、東京都連の窪田団長を先頭に22人が参加、清水は5人で対応しました。

清水の賃金調査では、前回との比較でほとんど変化がないことが明らかになり、組合側は「発注単価も示して議論をすすめるべきだ」と追及。清水は「個別現場の特性によって異なるので発注単価は差し控えたい」との回答。組合から「日建連は労務賃金改善の推進を言っている。課題を整理するためにも実態を正確に把握することが重要という認識は清水も組合も同じ。他のゼネコンでは賃金調査の内容をより詳細なものにした例もある。再度、賃金調査の改善を要求する」と述べました。

清水建設との交渉

週休2日制について、清水は「時づくり活動」「多能工の育成」など生産性向上により段階的に実現をはかると説明。組合からは「推進は賛成だが、出面で収入が決まる現状で、休みがふえて収入が減るのではと、危機感が強い」と追及すると、清水は「休日がふえる中身のことでも、土日をすべて閉所するのか、年間で週休2日に相当する休日を設けるのかなど検討中」と収入減はないという明確な回答はありませんでした。

主な組合の要求に、清水は「社に持ち帰って、情報を共有したい」との回答でした。

証紙の貼付ふやせ
住林 労災の増加を追及

住友林業との交渉

【共同デスク・嶋田記者】住友林業（以下、住林）への交渉は、6県連・組合が45人、住林が8人の参加で行ないました。

現場従事者の賃金調査は、10職種79業者に対して実施。請負の平均日額は、大工が2万1595円、左官が2万607円との結果になりましたが、月就労日数が全職種平均で25・2日だったことから、組合から「1日8時間、週40時間での月額50万円、年収600万円を望んでいる」と要望しました。住林は、「住宅メーカーの現状は週休2日で就業していない。取り組みは少しずつ始めている」と回答したため、改めて全職種の賃金アップによる就労日数の改善を要望しました。

建退共証紙の貼付枚数は、1年間で1社12人に対し2764枚という回答。組合からは、「もっと証紙を渡せるのではないか」と問いました。住林は、「建退共の貼付は、2次・3次各事業者の責任」と事実を誤認していたことから、組合から「元請責任で、2次・3次の分も含めて準備し、下請から請求があれば配布して欲しい」と要望しました。

労災事故件数は、前年度比で増加したとの回答。組合からは事故増加の原因と「どのように対応しているのか」を問い、住林は、「脚立の転倒があった。転倒防止にすべり止めのテープを配付している」と回答がありました。

建退共の調査を確認
鹿島「道半ば」とくり返す

【共同デスク・長島記者】鹿島との交渉は菅原団長を先頭に組合側は22人、鹿島から9人が参加しました。

賃金については、設計労務単価の上昇にもかかわらず、日給額に2万円台の職種が一つもないという乖離についても「なんともわからないところ」と、まるでひとごとのような回答。賃金調査の結果についての見解をたずねられても「昨年から微増、日建連の目標平均年収530万円達成には道半ば」と昨年と全く同じ回答。現場の賃金を引き上げるため具体的に何をしていくのか、という提案が示されません。

日建連「週休2日実現行動計画」については、まず生産性の向上が前提との回答に終始し、危機的な人手不足を解決するためにまず労働者の賃金引き上げを考えている旨の発言はきかれず、「システマティックなところまでは出来ていない。5年後の期限まで走っていくしかない」と業界の盟主とは思えぬ回答でした。

個別事例では「建退共証紙を鹿島と下請業者で2分の1ずつ負担する取り決めについて、下請業者が負担せず労働者に半分の証紙しか行き渡っていないのではないか」「公共工事の現場で下請業者に建退共の辞退届を提出させられている」との発言に対して、担当窓口から調査し、組合へ回答する旨の確認をしました。

現場からの報告

交渉して1次業者へ
供給事業契機に建方に

【千葉の仲間】私は2年前まではサイディング屋をしていましたが、千葉土建で行なっている労働者供給事業がきっかけとなり、今では建方をやっています。

労働者供給事業では、A社の1次業者B社で建方の見習いとして働きました。わからないながらも、いっしょうけんめいに仕事をしました。結果、B社から「社員にならないか」と声をかけていただき、現在はB社の2次事業所の社員として働いています。

正直なところ、建方になってから2年ですので、多少賃金が安くても仕方がないと思いますが、私の聞いた話ではB社の1次のあるグループには4人の職長がいます。世話になっている職長は請負で仕事していますが、他の職長さんは1万5千円に満たない日当であり、驚きました。

企業交渉でA社は1次に対しては適正な単価で発注していると言います。1次のB社も適正な単価で2次に発注していると言います。しかし2次下請けの企業は、私の親方や職長に対してそのような日当しか出していません。

組合からの助言を受け

これでは夢も希望もありません。そこで、どうしたら親方や自分の賃金が上がるのかを考え、組合に相談しました。組合からのアドバイスは交渉することでした。単価ではなく、B社の1次になる交渉をしたらどうかというものでした。

さっそく、親方に話し、組合の力を借りながら、B社と交渉しました。結果、取締役が私の親方を1次にする方向で動き始めています。そうなれば、B社から直接発注されるので、今よりは賃金も上がると思います。

組合の集まりで、参加者が言うことは「上位業者が単価を上げてくれない」「単価は下げられっぱなし」という話をよく耳にします。しかしそのように言う人は交渉しているのかと感じてしまいます。

今回、B社と交渉したことで少し希望がでてきています。実際、1次になれるかわかりませんが、検討してくれていますし、動き始めてくれています。親方がまじめに働き、腕を見込まれているからB社も動いたのだと思いますし、行動を起こしたから、動き始めたのだと思います。

現場の問題点冷静に伝える

A社にはたくさん言いたいことがあります。たとえば工期が短いこと、安全対策は現場任せであること、仮設計画どおりでないこと、引継ぎ検査ができとうなこと、監督が現場にあまり来ないことなどあげれば切りがありません。

ただ、こういったこともキチンと冷静に伝えていくことが重要だと感じます。今回、賃金の件で、親方と私が交渉した結果、B社は考えてくれています。

今日、ここに集まった皆さん自身の仕事で、上位企業と交渉し、要求していくことが重要だと思います。伝えていかなければ変わりません。

それでも上位企業が理不尽なことを言ってきたりしたら、この企業交渉で現場の問題や現状を突き付ければいいと思います。

週休2日は単価増で
生産性20%アップと言うが

【神奈川の仲間】2次下請、野丁場で鉄筋工をしています。個人事業主で従業員は3人と、CMが有名なマンション建設の大手のもとで働いています。仕事のできない、あるいは知らない監督が多いです。現在の現場も、そんな監督でピリピリした雰囲気になっています。

神奈川鉄筋協会では1万7千円だった応援単価を、3千円の社会保険料をプラスし、（横浜、川崎限定かもしれないが）2万円となりました。しかし単価はほとんど変わっていないのが現状で、応援をもらうのに以前よりだいぶ出費が多くなっています。

近頃の現場での配筋検査の厳しさ、施工難度により収入も厳しくなってきました。しかし単価は一定のまま、これで週休2日制が決まったらと思うとゾッとします。教育費のかかる子どもたちを安心して学校に通わせるためにも、週休2日制には単価の引き上げは絶対条件で進めてもらいたいです。生産性の1・2倍化が言われている中ですが、生産性は現状でも十分がんばっているつもりです。社会保険加入問題の時、加入が先行して法定福利費はもらえないと同じようなことにならないように、週休を増やすなら単価の引き上げも同時進行にしてもらいたいです。

職人の誇り捨てない

私は建設業にすすんで入職しました。職人、技能者としてプライドは絶対に捨てません。私たちがいなくて、建設物が作られるなどと思っていません。私は、ゼネコンは業界で共に働く仲間だと思っています。現場所長はよく「施主様のためにいいものを作りましょう」と言っていますが、私たちも同じ気持ちです。現場所長が大手企業交渉を知らないでは困ります。交渉に所長などが同席し、意見を出し合うことで現場環境は改善すると思います。

詰将棋の解答

▲2三歩△3一玉▲3四竜△3二角▲2二金△4二玉▲3二金△同金▲4三銀成△同金▲3一角△4一玉▲4三竜△3一玉▲3二金まで15手詰。